

Point

地域安全マップ作りは、どんな場所が危険なのか子ども自身に考えさせること！

地域安全マップ作りの大きな目的は、子どもを被害者にも加害者にもさせないための危険回避能力（想像力、判断力、コミュニケーション能力など）を身につけさせるということです。

自分たちが住んでいる地域を実際に歩いてみることで、地域への関心や危機管理意識が高まり、「どんな場所が危険なのか」を考えることによって想像力や判断力が身につきます。そして、地域の人と関わることでコミュニケーション能力も高まります。地域安全マップのできあがりよりも、むしろその作成過程（プロセス）が非常に重要なのです。

例えば、事件や事故が発生した場所を大人がチェックしただけの犯罪発生マップ等の地図では、子どもに危険回避能力を身につけさせることはできません。なぜなら、その場所がどうして危険か分からないまま、「その場所だけ気をつければいい」と誤解してしまうからです。

この地域安全マップ作りを経験しておけば、犯罪を誘発する場所を見抜く力が身につき、初めて訪れる街などでも、それを応用して危ない場所を避けて通ることができるようになるのです。大切なのは、「犯罪にあう機会を減らす」ということです。

地域安全マップの作り方

まずは気軽に家庭で作ってみることをお勧めします。その後、学校や地域の大勢の皆さんで取り組むと効果はより大きくなります。ここでは家庭において親子で作る例を紹介します。

※ 地域安全マップの作り方は自由です。みんなでいろいろと工夫して、楽しく作ってみましょう。

用意する物

- ・紙：画用紙、模造紙など大きめの紙
- ・筆記用具：鉛筆、ペン（色のついたものも用意するとよい）
- ・カメラ（デジカメなど）
- ・持ち歩き用の地域の地図
- ・メモ帳など

Step 1 地図を作ります。

画用紙や模造紙に、通学路を含めた子どもの行動範囲の地図を描きます。道路や川などを基本にし、目印になる建物を描きます。そして、そこに子どもがよく行く場所（友だちの家、公園、おけいこの教室、図書館、児童館など）を相談しながら描き込んでください。大体の位置が分かればいいので、精巧である必要はありません。住宅地図などを参考にして、楽しく作りましょう。

